

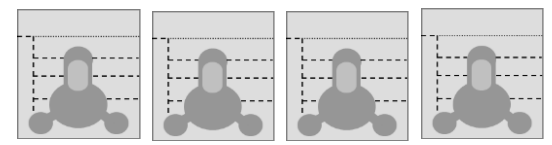
共用プール・キャスク仮保管設備 燃料保管状況について

2015年11月30日
東京電力株式会社

1. 燃料の保管概要

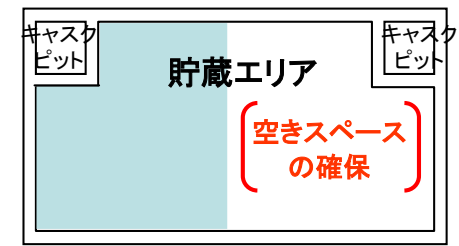


1～4号機



取出し・移動

共用プール

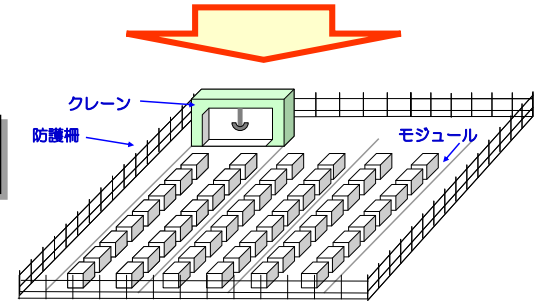


現在までの作業状況

- 燃料取扱いが可能な状態まで共用プールの復旧が完了 (2012/11)
- 共用プールに保管している使用済燃料のキャスクへの装填を開始 (2013/6)
- 4号機使用済燃料プールから取り出した燃料を受入開始 (2013/11)

共用プール内空きスペースの確保
(キャスク仮保管設備への移送)

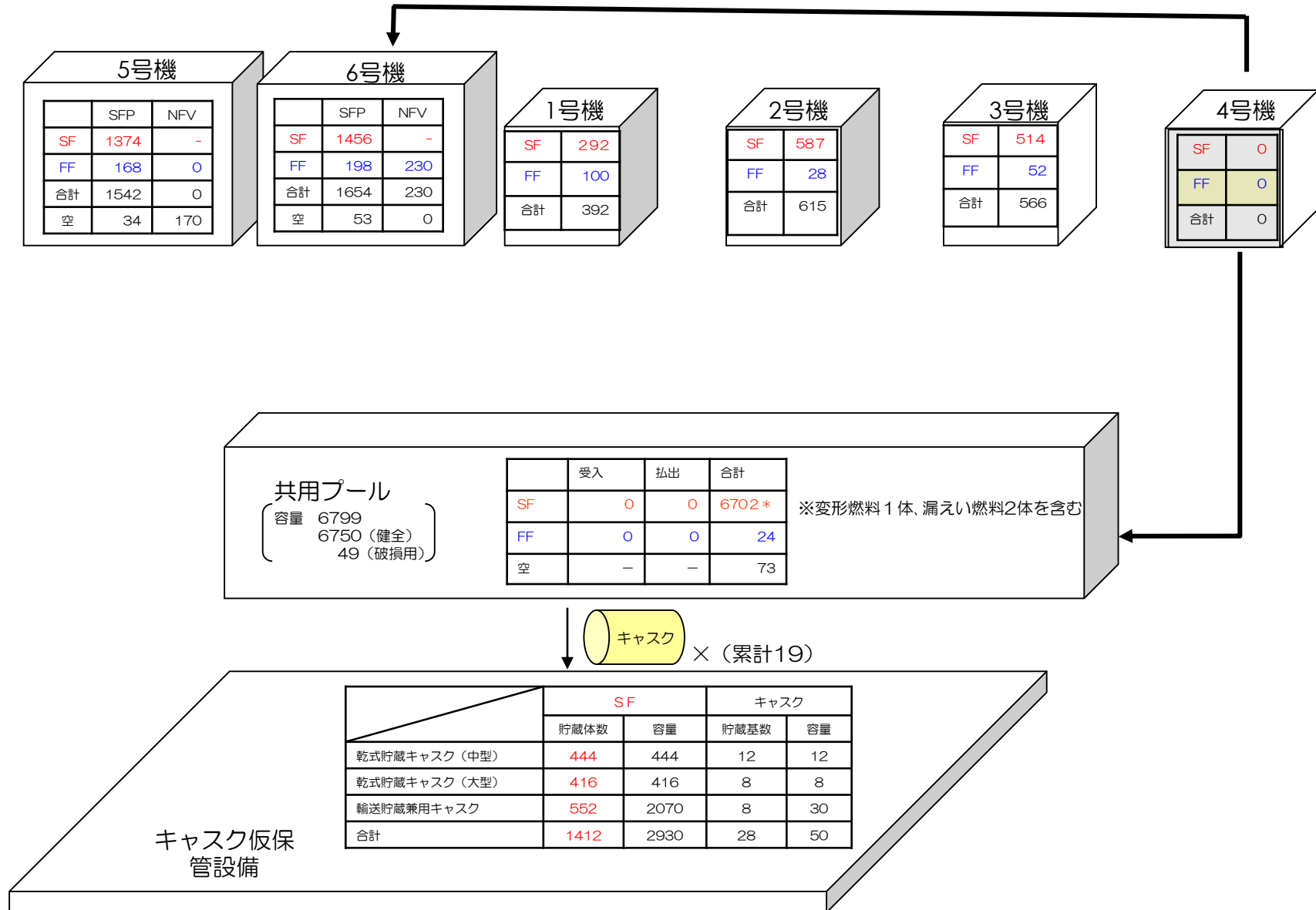
キャスク仮保管設備



2013/4/12より運用開始、キャスク保管建屋より既設キャスク全9基の移送完了(2013/5/21)、キャスク調達準備が整い次第、共用プール保管中燃料を順次移送予定。

2. 1F燃料移送実績・保管状況（4号機取出完了時点）

SF：使用済燃料（単位：体）
 FF：新燃料
 NFV：新燃料貯蔵庫



3. 共用プール・キャスク仮保管設備での保管について

- 共用プールでの保管について
 - 使用済燃料プールから取り出した燃料を共用プールに移送し、安定的に貯蔵することを基本としている。
 - 電源の多重化、防水対策を実施し、安全性が高まっている状況である。さらに、消防車による外部注水も準備している。

- キャスク仮保管設備での保管について
 - 使用済燃料プールの燃料を共用プールにて受け入れるため、その空きスペースをつくるため、共用プールの燃料をキャスクに装填し、キャスク仮保管設備で仮保管する。
 - 仮置き基数は、1～3号機使用済燃料プールに保管中の燃料移動の状況によって変わるが、現状のキャスク仮保管設備としては65基（燃料体数4000体程度）仮置きできる広さを確保している。現状は、50基分設置可能であり、今後、15基分の増設を検討中である。（現在28基設置完了、燃料体数約1400体）
 - 仮保管中のキャスクについては、圧力、温度、エリアモニタの監視を行い安全な状態であることを確認する体制である。

- 将来の処理・保管方法については、福島第一廃止措置の全体の動きの中で検討していく。